

# JR東海労ニュース

No.1251

2009年3月30日

JR東海労働組合

09 JR春闘シリーズ ⑩

## 30日、10時 妥結通告！

本部は、3月30日午前10時、賃金引き上げに関して大変不満ではありますが会社に妥結通告を行いました。

2月13日、「2009年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れ」（申第26号）を提出し、5回の団体交渉を行って来ました。

会社は3月18日、ベアゼロを回答したため、同日「2009年度賃金引き上げ、夏季手当の再申し入れ」（申第30号）を提出し、3月27日まで団体交渉を精力的に展開してきました。

3月28日、第10回中央執行委員会及び代表者会議において、これ以上の前進はないと判断し妥結を決定しました。

賃金格差の拡大を許すな！

### 2009年度賃金改訂交渉の集約にあたって

本部は3月30日10時、2009年度賃金改訂交渉を集約し妥結しました。本部は今賃上げ交渉において、①組合員一律ベア7,700円の引き上げ②基準昇給額の一律1,700円引き上げ③夏季手当3.2ヶ月分の支給④専任社員の雇用条件、労働条件の改善⑤休日出勤の解消を要求し、5回に渡る団体交渉を重ねてきました。会社は、3月18日、第4回団体交渉において、①ベアゼロ②諸手当等の改訂③夏季手当2.95ヶ月の回答をしてきました。

本部は、休日出勤などを含む組合員の日夜に渡る努力を考えると到底納得のいくものではないとして『再申し入れ』を行いました。

3月27日、第5回団体交渉を開催し、1,240億円の収益が予想される中で「ベアゼロは認められない」「役員報酬・株主配当金を見直すこと」などを中心に追求しました。しかし会社は、賃金については「再考する考えはない」、役員報酬・株主への配当金については「賃金交渉の場になじまない」として議論を拒否しました。

今次賃金改訂交渉において、会社は「諸手当等の見直し」として特別加算（抜てき）の基準額を明らかにしてきました。これは、社員間の格差を広げ、競争心を煽る新人事・賃金制度を深度化することによって会社への規律と忠誠心をさらに徹底するものです。

また、今春闘においては多くの大企業の労働組合が、世界的同時不況による業績の悪化を理由としたベア見送りをする中、JR東海の責任組合を自称するJR東海ユニオンも早々に妥結することにより、賃金交渉は困難を余儀なくされました。

本部は、3月28日、第10回中央執行委員会及び代表者会議において議論した結果、これ以上の進展は困難と判断し、多くの不満を残しながらも集約し妥結することとしました。

これまで支援・激励を頂いた組合員・家族の皆さんへ心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2009年 3月30日  
JR東海労働組合中央本部